SYLLABUS

2020年度　シラバス

HUMANITEC DENTAL HYGIENIST

名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校

歯科衛生学科　　３年生（１４期生）

∽∽　ＳＹＬＬＡＢＵＳ　目次　∽∽

１．歯科衛生統計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
２．衛生・公衆衛生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
３．衛生行政・社会福祉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
４．歯科予防処置論Ⅴ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
５．歯科保健指導論Ⅴ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
６．歯科診療補助論Ⅳ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
７．臨床・臨地実習Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
８．歯科総合基礎講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
９．ライフデザインⅢ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１

授業名	歯科衛生統計	学年	3年次　前期
担当講師名	外山敦史・新井歌織	単位(時間数)	2単位(30時間)

■授業概要

歯科医療情報の多くは統計処理した結果として提供されている。それらの情報を評価し、利用するには統計学の知識が必要である。本講義では、統計学の基礎を身につけると同時に、歯科で用いられる統計指標についての理解を得ることを目標とする。

■到達目標

統計学の基本と疫学指標を理解することで、学術情報を正確に読み取ることができる力を身につける。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	概論、保健情報	衛生統計の概要と保健情報
2	疫学(1)	疫学の考え方
3	疫学(2)	疫学研究
4	歯科疾患の疫学指標(1)	う蝕の指数
5	歯科疾患の疫学指標(2)	口腔清掃状態の指数①
6	歯科疾患の疫学指標(3)	口腔清掃状態の指数②
7	歯科疾患の疫学指標(4)	歯周疾患の指数
8	保健情報の収集・情報保護と倫理	様々な保健情報とその活用・情報保護の法律など
9	情報の公開	グラフとプレゼンテーション
10	政府統計(1)	国家統計調査
11	政府統計(2)	歯科疾患実態調査など
12	計理論(1)	基礎統計
13	統計理論(2)	相関・オッズ比
14	統計理論(3)	検定
15	まとめ	講義のまとめ

【評価方法】

試験評価・・・・・・・100%

【使用教科書】

ビジュアル歯科保健医療　統計学　医歯薬出版社

【使用参考書】

プリント等

授業名	衛生学・公衆衛生学	学年	3年次　前後期
担当講師名	熊谷　法子	単位(時間数)	2単位(30時間)

■授業概要及び到達目標

公衆衛生学は共同社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率の増進をはかる科学・技術である。 21 世紀の日本にとって、ますます高齢化が進み、疾病構造が変化してきていることなどから、保健医療サービスに対する住民のニーズが急速に高まっている。「健康日本 21」が策定され、資質の高い保健医療関係者が求められる。 歯科衛生士にとって、歯科衛生と共に公衆衛生学を学ぶことはきわめて重要である。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	総論	健康の概念、予防医学の概念
2	疫学	疫学の定義、概要および方法
3	人口	人口の動向、人口動態統計、生命表
4	健康と環境①	環境の概念、空気、水、放射線
5	健康と環境②	地域環境、公害、廃棄物
6	感染症	感染症の成り立ち、予防、動向
7	食品と健康	食品保健、栄養と健康
8	地域保健・公衆衛生	地域保健の概念、組織、地域保健活動
9	母子保健	母子保健の意義、妊産婦保健、小児保健
10	学校保健	学校保健の意義、概要、活動と組織
11	成人保健	成人保健の意義、生活習慣病、成人保健対策
12	産業保健	概念、職業性疾病、産業保健管理、産業組織活動
13	老人(高齢者)保健	老人(高齢者)保健の意義、行政組織と法律
14	精神保健・災害時の歯科保健	精神保健、医療、福祉 大規模災害時の保健医療対策
15	国際保健・まとめ	開発途上国の健康問題 わが国の保健医療問題、国際協力

【評価方法】
終講試験

【使用教科書】
最新歯科衛生士教本 「保健生態学」 全国歯科衛生士教育協議会　編集 （医歯薬出版）

【使用参考書】
配布プリント等

授業名	衛生行政・社会福祉	学年	3年次　前期
担当講師名	奥村　秀則	単位(時間数)	2単位(30時間)

■授業概要

歯科衛生士は、歯科保健医療にかかわる職種であり、わが国においては、保健医療は法で定められた制度に基づいて行われている。そして、歯科衛生士という職そのものが、歯科衛生士法という法律よって作られている。そこで、歯科衛生法をはじめとする種々の保健医療に関する法律について学び、さらに歯科衛生士を取り巻くわが国の社会保障制度についての理解を深める。

■到達目標

わが国における社会保障制度の目的とその内容について理解する。また、歯科衛生士法および関連法規の内容を修得し、説明できる。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	歯科4法	歯科４法とその他保健医療法規
2	歯科衛生士法の成り立ち	歯科衛生士法の沿革
3	歯科衛生士法1	歯科衛生士法の目的と歯科衛生士の業務
4	歯科衛生士法2	免許、歯科衛生士名簿、相対的欠格事由
5	歯科衛生士法3	歯科衛生士国家試験、業務上の義務
6	歯科医師法	歯科医師法の沿革と内容
7	歯科技工士法	歯科技工士法の沿革と内容
8	医療法	医療法の沿革と内容
9	医療関係職種1	保健師助産師看護師法、診療放射線技師法
10	医療関連職種2	その他の医療関係職種に係る法律
11	その他関連法規1	薬事衛生法規
12	その他関連法規2	保健衛生法規
13	社会保障1	社会保障、社会保険、医療保険
14	社会保障2	介護保険
15	社会保障3	社会福祉にかかわる法規

【評価方法】

筆記試験の評価点により総合的に判断する

【使用教科書】

最新歯科衛生士教本:歯科衛生士と法律・制度/第2版　医歯薬出版社

【使用参考書】

授業名	歯科予防処置論Ⅴ	学年	3年次　前・後期
担当講師名	専任教員	単位（時間数）	1単位（30時間）

■授業概要

口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、相互実習を通じて歯科衛生課程・メインテナンス、SPTの考え方及び組み立てを実施する。また、国家試験対策では国家試験に向けて、傾向と対策をおこなう。

■到達目標

基礎学習の習得及びそれに付随する正確な実技習得を目標とする。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	メインテナンス・SPT	メインテナンス・SPTとは メインテナンス・SPTにおける歯科衛生士の役割
2・3・4	歯科衛生課程① （相互実習）	歯科衛生アセスメント （情報収集）
5・6	歯科衛生課程②	歯科衛生アセスメント、歯科衛生診断、 歯科衛生計画立案
7・8	超音波スケーラー （相互実習）	術者バキュームによる超音波スケーラー操作
9・10	歯科衛生課程③	発表と検討
11～15	国家試験対策	国家試験の傾向と対策

【評価方法】

終講試験(出欠状況、授業態度、レポート（提出物）、小テスト等含む)・歯科衛生課程発表

【使用教科書】

新歯科衛生士教本『歯科予防処置』（医歯薬出版）

最新歯科衛生士教本『保健生態学』(医歯薬出版)

最新歯科衛生士教本『歯周疾患』(医歯薬出版)

【使用参考書】

歯科衛生士臨床ビジュアルハンドブック（クインテッセンス出版）

授業名	歯科保健指導論Ⅴ	学年	３年次　前後期
担当講師名	専任教員	単位（時間数）	1 単位（30 時間）

■授業概要

歯科保健指導は、歯科衛生士にとって重要な仕事の一つであり、幅広く基礎知識及び専門的な知識が必要とされる。
健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持し、増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を取得する。

■到達目標

個人やある特定の集団、地域、社会など生活の場の中で、目標達成のために自覚を促し、具体的な方法や行動を見つけ、実践できるように助言や援助の技法を身につける。
在宅訪問歯科診療における口腔衛生及び口腔機能管理を実施するために、必要な知識と技術を総合し身に付ける。特別支援学校での実習を通じて障害を持つ方の口腔ケアの方法を学ぶ。
また国家試験に合格する知識学力を習得する。

回数	テーマ	授業内容
１・２	介護、福祉の現場における口腔ケア①	口腔ケアの基礎技術、口腔機能訓練 対象把握と機能評価
３・４	介護、福祉の現場における口腔ケア②	口腔ケアの基礎技術、口腔機能訓練 対象把握と機能評価
５・６	介護、福祉の現場における口腔ケア③	障がいのある人の口腔ケア①
７・８	介護、福祉の現場における口腔ケア④	障がいのある人の口腔ケア②
９・１０	特別支援学校保健教育（学外実習）	特別支援学校における集団指導、個別指導
１１	国家試験対策①	Ⅰ、総論 Ⅱ、歯科保健指導の基礎①
１２	国家試験対策②	Ⅲ、口腔機能維持向上、居宅介護 Ⅳ、歯科保健指導の基礎②
１３	国家試験対策③	Ⅴ、地域保健
１４	国家試験対策④	Ⅵ、口腔清掃指導法
１５	国家試験対策⑤	Ⅷ、生活指導 Ⅸ、歯科衛生教育活動

【評価方法】
終講試験（小テスト、身だしなみ、忘れ物、提出物、出欠状況、授業態度、学外実習態度含む）

【使用教科書】
医歯薬出版・最新歯科衛生士教本歯科予防処置論･歯科保健指導論
医歯薬出版・最新歯科衛生士教本保健生態学
永末書店・介護予防の現場で役立つ　口腔機能向上事例集

【使用参考書】歯科衛生士試験対策ポイントチェック⑤（医歯薬出版）

授業名	歯科診療補助論Ⅳ	学年	3年次　前・後期
担当講師名	専任教員	単位(時間数)	1単位(30時間)

■授業概要

高齢化社会をむかえ、歯科診療においても様々な疾病を持った患者への対応が求められる。
通常の歯科診療の過程においても、患者の健康状態の把握や基礎疾患の知識を持ったうえで診療にあたることが大切である。そのためには、歯科のみの知識にとどまらず、全身と歯科とを関連付けて考えることの出来る基礎的な知識を持ち、今日のガイドライン、エビデンスに基づいた対応ができるよう学んでいく。

■到達目標

1）暫間被覆冠の目的と作製に必要な器具の準備と作成手順を説明できる。
2）既成冠を使用した暫間被覆冠の作製が出来る。
3）全身状態の把握をするためのバイタルサインについて説明出来る。
3）循環器系疾患について説明し、歯科診療上問題となる点、配慮すべき事柄を述べることができる。
4）脳血管疾患について説明し、歯科診療上問題となる点、配慮すべき事柄を述べることができる。
5）代謝性疾患について説明し、歯科診療上問題となる点、配慮すべき事柄を述べることができる。
6）肝疾患について説明し、歯科診療上問題となる点、配慮すべき事柄を述べることができる。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助
2	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助
3	暫間被覆冠の作成	既成冠を使用した暫間被覆冠の作成
4	暫間被覆冠の作成	既成冠を使用した暫間被覆冠の作成
5	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助
6	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助
7	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助
8	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助
9	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助
10	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助

11	国家試験対策	総論 共同動作
12	国家試験対策	歯科材料の種類と取り扱い 保存治療時の診療補助
13	国家試験対策	補綴治療時の診療補助
14	国家試験対策	口腔外科治療時の診療補助 矯正歯科治療の診療補助
15	国家試験対策	エックス線撮影時の診療補助 小児歯科治療時の診療補助

【評価方法】

終講試験（小テスト、身だしなみ、忘れ物、提出物、出欠状況、授業態度、含む）

【使用教科書】

最新：歯科衛生士教本　歯科診療補助論　第2版（医歯薬出版）

イラストと写真でわかる歯科材料の基礎　第3版（永末書店）

最新：歯科衛生士教本　歯科機器　（医歯薬出版）

【使用参考書】

歯科衛生士のための主要3科＋臨床歯科医学問題例集（口腔保健協会）

有病者歯科ポケットブック　全身疾患 VS 歯科治療（デンタルダイヤモンド社）

歯科衛生士臨床ビジュアルハンドブック（クインテッセンス出版）

改訂　歯科診療のための内科（永末書店）

授業名	臨床・臨地実習Ⅱ	学年	３年次　前・後期
担当講師名	実習施設指導員	単位（時間数）	１２単位（５４０時間）

■授業概要

指定規則に定める教授要綱に基づき学校内で学んだ知識・技術を歯科臨床や地域保健等の実践の場面に適用し、理論と実践を結びつける。

■到達目標

講義と学内実習で学んだものを基に、理論と実践を結び付け理解できる能力を養うことを目的とする。

臨床実習Ⅲ・Ⅳ期

実習分野	実習内容
診療介助業務	◎　医療人としての姿勢を学ぶ
	◎　歯科診療室の環境整備を行う
	◎　感染予防を実践する
歯科診療補助	◎　症例に応じた器材を準備する
	◎　器具・器材の受け渡しを行う
歯科予防処置	◎　指示された方法でう蝕予防処置を行う
	◎　指示された方法でスケーリングを行う
歯科保健指導	◎　指示された方法でブラッシング指導を行う
歯科訪問診療	◎　在宅訪問歯科診療の流れを学ぶ　下記参照

臨床実習Ⅴ期

実習分野	実習内容
診療介助業務	◎　治療の流れを把握したうえで歯科診療介助を行う
歯科診療補助	◎　治療の流れを把握したうえで歯科診療補助を行う
歯科予防処置	◎　患者管理を目的とした指導計画の立案と業務記録の作成を行う
歯科保健指導	◎　患者管理を目的とした予防処置・保健指導を実践する
歯科訪問診療	◎　他職種と連携を取りながら口腔ケアの自立支援・ＱＯＬの向上 口腔機能向上などを学ぶ　下記参照

＊　診療介助業務、歯科診療補助においては２年次後期の実習内容含む

＊　歯科予防処置　・手用スケーラーによるスケーリング
・各種スケーラーによるスケーリング・ルートプレーニング
・シャープニング・口腔清掃・歯面研磨・ＰＭＴＣ
・フッ化物局所応用・小窩裂溝填塞・フッ化ジアンミン銀

＊　歯科保健指導　・ブラッシング指導・栄養指導・患者継続管理指導
・患者とのコミュニケーションのとり方・生活習慣の指導
・アセスメントのとり方

＊　歯科訪問診療　・在宅歯科診療の補助・訪問歯科保健指導・口腔ケア
・口腔機能低下スクリーニング・口腔機能訓練
・高齢者との会話法

臨地実習

幼稚園：集団においての歯磨き指導

社会福祉施設：他職種と連携をとり、摂食支援・介助や食後の口腔ケア
口腔機能訓練、福祉レク

【評価方法】

臨床実習評価　90%　　臨地実習評価　10%

授業名	歯科総合基礎講座	学年	3年次　後期
担当講師名	専任教員他	単位(時間数)	4 単位(60時間)

■授業概要

歯科衛生士国家試験に向け、3 年間の総まとめの学習を行う。
専門基礎分野、専門分野の科目を振り返り、学習状況の確認を行うとともに基礎から応用に発展させることができるよう学習を進める。

■到達目標

歯科衛生士国家試験合格基準の学力を身に付け、3年制課程の学修の集大成とする。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
※日程、科目の詳細は後日配布します。		

【評価方法】
卒業試験

【使用教科書】
オリジナルプリントの配布

【使用参考書】
随時お伝えします。

授業名	ライフデザインⅢ （アレンジメントフラワー）	学年	3年次　前期・後期
担当講師名	武保　真紀子	単位（時間数）	1単位（30時間） この内以下の項目を含む アレンジメントフラワー（8時間） 口腔ケア（14時間） 食育実習（8時間）

■授業概要及び到達目標

心と花から得られる癒しの効果が心理的作用を促す仕組みを理解します。
実際に花を選び、単純なパターンで行けられるよう指導。季節によって、または環境によって選ぶポイントを理解できます。自分と向き合うことで自立した精神統一の有効性を体感します。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
1	**器からつくる春のアレンジ** 基礎知識	**ラッピング用紙で器を作り、その中にフラワーアレンジ** ・花の選び方、カットの仕方、色の仕組みと組み合わせ、 そのほかの知識
2	実技	・実践
	マグカップアレンジ	**なげいれ作成→カップにアレンジ**
3	なげいれの生け方方	・なげいれの説明→マグカップになげいれの製作
4	カップにアレンジ	・カップにアレンジ 吸水性スポンジを使用し、クリニックに飾るイメージでアレンジ ・おさらい小テストと感想文

【評価方法】 レポート提出、作品評価、小テスト
【使用教科書】
【使用参考書】

授業名	ライフデザインⅢ （口腔ケア）	学年	3年次　前期
担当講師名	山田　守正	単位（時間数）	1単位（30時間） 以下の項目により構成される アレンジメントフラワー（8時間） 口腔ケア（14時間） 食育実習（8時間）

■授業概要及び到達目標

口腔ケアとは、口腔の疾患予防、リハビリテーション、健康の保持・増進などにより、QOLの向上を目指した技術である。歯科衛生士として口腔ケアに携わる上で、必要な基礎知識をまず習得する。また、基礎知識以外にも歯磨き、うがい、義歯、口臭、障害や病気のある人、口腔乾燥、摂食・嚥下障害、在宅などと、口腔ケアとの関わりについても詳細に学習する。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
5	総編　口腔ケア定義	口腔ケアの定義 口腔ケアをするときの注意事項 口腔ケアによる感染予効果 口腔ケアと誤嚥性肺炎 口腔ケアにおける医療事故 口腔ケアにおける歯科衛生士の役割
6	各編　症状別の口腔ケア	片麻痺などで上手く歯磨きができない人への指導と口腔ケア 座位をとりづらい人の口腔ケア 首の屈曲・回転があまりできない人の口腔ケア 舌をいつも出し入れし、緊張するとさらに強くなる人の口腔ケア
7		認知症のある人の口腔ケア 意識障害があり、口腔ケア用品を入れると噛んでしまう人の口腔ケア 痛いところがあっても、訴えることができない人の口腔ケア 痰の処理が自分でできない人の口腔ケア
8	各編　疾患別の口腔ケア	口腔癌患者の治療前の口腔ケア 化学療法、放射線治療時の口腔ケア 口腔ケアにおけるがん治療の効果 癌に備えた口腔ケア（50 歳以上の方への説明を理解する）

9		口内炎がある人の口腔ケア 有熱患者と口腔ケア 糖尿病患者と口腔ケア 心疾患患者と口腔ケア 血液疾患患者の口腔ケア 口腔ガンジダ症がある人の口腔ケア 抗てんかん薬服用者の口腔ケア 口腔内に外傷のある患者の口腔ケア 矯正装置を装着している人への口腔ケア 経管栄養中の患者の口腔ケア 挿管中の患者の口腔ケア
10	応用編　出血、口腔乾燥	歯肉から出血しやすい人の原因 出血しやすい人の口腔ケア 高齢者が出血しやすい原因 口腔ケア時の歯肉からの出血対応 抜歯後患者の口腔ケア 口腔内、口唇の乾燥を防ぐ対策 口蓋に痰がこびりついているときの対応 人工唾液 口腔乾燥と口腔ケア 口唇が切れやすい人の口腔ケア
11	応用編　摂食･嚥下障害	摂食･嚥下障害とその評価法 摂食･嚥下障害者の口腔ケア 嚥下障害を改善していくための留意点 嚥下障害のある人の口腔清掃の注意点 摂食･嚥下障害のある人の食事の注意点 （在宅を含む） 摂食時のトラブルへの対処法 誤嚥を防ぐための義歯の有用性 摂食･嚥下障害の検査

【評価方法】
レポート提出：　授業後レポートを提出し、100 点で採点　50 点以上合格とする

【使用教科書】
口腔ケア　基礎知識（編集　日本口腔ケア学会）　末永書店

【使用参考書】
日本口腔ケア学会認定資格標準テキスト 問題と解説集 3 級・4 級・5 級，　医歯薬出版

授業名	ライフデザインⅢ （食育実習）	学年	3年次　前期・後期
担当講師名	名古屋ユマニテク 調理製菓専門学校 専任教員	単位（時間数）	1単位（30時間） この内以下の項目を含む アレンジメントフラワー（8時間） 口腔ケア（14時間） 食育実習（8時間）

■授業概要及び到達目標

※各ライフステージの特徴に照らし合わせ、必要な栄養素とその摂取基準を理解したうえで食生活指導が出来るよう、実際の調理の経験を通して歯科保健指導を考える。

■授業計画

回数	テーマ	授業内容
12 13 14 15	※内容については、後日お伝えします。	

【評価方法】 レポート提出
【使用教科書】
【使用参考書】